

No.101

一般社団法人 日本化学工業協会

レスポンスブル・ケア ニュース

2022 夏季号



レスポンスブル・ケア®



第31回定時総会

5月27日(金)、第31回日化協定時総会が開催されました。昨年に引き続き、今回も新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、ウェブ会議システムを併用して開催されました。ウェブ併用による開催は定時総会としては3回目です。総会は、正会員数261に対し、委任状、オンラインによる出席を含め165名の出席の下で開催されました。

森川会長が議長を務め、下記議案について審議が行われ、いずれも異議なく原案の通り承認されました。

議案

1. 報告事項

2021年度事業報告及び決算報告の件

2. 審議事項

- 第1号議案 2022年度事業計画案及び収支予算案の件
- 第2号議案 理事25名選任の件
- 第3号議案 監事2名選任の件
- 第4号議案 会計監査人選任の件

開会にあたり、森川会長より、次のような退任の御挨拶がありました。2020年に会長に就任しましてから2年が経過しましたが、この2年の間には、プラスチック資源循環、カーボンニュートラル実現といった、重要な課題が具体的に提起されました。特に、カーボンニュートラルは、化学品のライフサイクル全体に関わる課題です。例えば、「製造時」においては原料転換とエネルギー転換という課題があり、「製品自体」ではカーボンニュートラル実現に必要な素材、材料、技術の供給という課題が、また「使用後」においてはケミカルリサイクルの社会実装という課題があります。これらの実現に向けて、ソリューションプロバイダーとしての化学産業の役割が益々大きくなった2年間だったと実感しています。日化協が、地球に課せられた課題に正面から取り組むことにより、我が国の化学産業はさらなる飛躍を遂げることができると確信しています。今後も、日化協へのご支援・ご協力をお願い申し上げます。

議事

会議開催に先立ち、議長より、日化協独占禁止法遵守ガイドラインを確認し、適法で会議を運営することが宣言されました。次に議案審議に先立ち、議事録署名人2名の選出につき、議長に一任願いたい旨を議場に諮ったところ、全員異議なくこれに同意しました。議長は出席した正会員の中から、川橋信夫氏、並びに加藤敬太氏を議事録署名人に指名し、両氏はこれを承諾しました。

報告事項 2021年度事業報告及び決算報告の件

議長の指示により、進藤専務理事が、2021年度事業報告及び収支決算報告の各案は、5月13日の監事による監査を経て、5月16日開催の総合運営委員会、5月18日開催の審議委員会、5月20日開催の理事会において、それぞれ承認を得ている旨を報告し、配付資料に基づき、内容について説明を行いました。引き続いて、監事を代表して山本寿



宣監事が、5月13日に開催した監事会で、2021年度事業報告書、及び決算報告について監査をした結果、記帳等はいずれも正確であり、また経費の支出も適正かつ妥当であったことを報告しました。

第1号議案 2022年度事業計画案及び収支予算案の件

次に議長の指示により、進藤専務理事が、2022年度事業計画及び収支予算の各案は、3月14日開催の総合運営委員会、3月16日開催の審議委員会、3月18日開催の理事会において、それぞれ承認を得て提案されたものである旨を報告し、配付資料に基づき、内容について説明を行いました。後、議長が本件原案どおり承認願いたい旨を議場に諮ったところ、全員異議なく原案どおり可決承認されました。

第2号議案 理事25名選任の件

次に議長の指示により、進藤専務理事が、定款第13条及び第18条第4項に基づき、理事25名の選任につき、1名ずつ候補者名を読み上げ、各候補者ごとに、議長より原案どおり承認願いたい旨が議場に諮られ、全員異議なく、理事25名それぞれの選任が原案どおり可決承認されました。

第3号議案 監事2名選任の件

次に議長の指示により、進藤専務理事が、定款第13条及び第18条第4項に基づき、監事2名の選任につき、1名ずつ候補者名を読み上げ、各候補者ごとに、議長より原案どおり承認願いたい旨が議場に諮られ、全員異議なく、監事2名それぞれの選任が原案どおり可決承認されました。

(各理事・監事につきましては、日化協のHPを御参照ください。<https://www.nikkakyo.org/about/members>)

第4号議案 会計監査人選任の件

次に議長の指示により、進藤専務理事が、定款第23条に基づき、会計監査人の選任につき、現会計監査人であるEY新日本有限責任監査法人より、2021年度をもって契約終了の申し入れがあったため、新たに会計監査人として、有限責任あずさ監査法人を選任したい旨の説明がありました。後、議長が本件原案どおり承認願いたい旨を議場に諮ったところ、全員異議なく原案どおり可決承認されました。

閉会

議長は以上をもって、一般社団法人日本化学工業協会第31回定時総会の全議事を終了する旨を述べ、議場にその協力を感謝し閉会を宣言しました。

カーボンニュートラル実現に向け、 イノベーションの社会実装へ

一般社団法人 日本化学工業協会
会長 福田 信夫



化学産業は、2050年カーボンニュートラル実現に向け、健康で快適、便利な生活を支える製品・サービスを提供するだけでなく、さまざまな課題を解決するソリューションプロバイダーとして社会へ貢献することが求められています。

今後も化学産業が、健全に発展し、社会の持続的成長に貢献するために、「カーボンニュートラル実現への一層の貢献」「社会とのコミュニケーションの強化」「操業と化学品管理の安全強化による安心の提供」の3点を重点テーマとし、持続可能な社会の構築に向けて活動を進めてまいります。この3点は独立したテーマであるとともに「安全・安心」を化学産業の基盤として、「コミュニケーション」を手段として活用し、「カーボンニュートラル」をゴールとする、という関係にあると考えています。

方針① 「カーボンニュートラル実現への一層の貢献」

持続可能な社会への転換に資する技術開発に期待が高まっているなか、日本政府の2050年カーボンニュートラル宣言を受け、イノベーションの社会実装を加速していくことが求められています。

日化協では、2021年に策定した「カーボンニュートラルへの化学産業としてのスタンス」をもとに、化学産業における「エネルギー転換」と「原料転換」などを支援してまいります。エネルギー転換では、再生可能なエネルギーへ転換するほか、エネルギーの利用極小化に向けた製造プロセスの技術革新などによるCO₂の排出量削減に寄与する基盤構築を進めてまいります。原料転換では、廃プラスチックのリサイクルやCCU (CO₂の回収・利用)、人工光合成などによる炭素循環を目指し、技術開発を支援いたします。これらの実現に向けて、日本全体として力を発揮できるよう、行政、他産業とも連携して取り組みを進めてまいります。

方針② 「社会とのコミュニケーションの強化」

技術革新によって創出される新たなソリューションやサステナブル製品の環境価値が認められる社会を醸成することも重要です。化学製品のライフサイクル全体を通じた環境負荷削減への貢献を定量的に評価できる仕組みの構築を図ることで、化学産業の重要性・有益性

を発信し、社会とのコミュニケーションに努めてまいります。

グローバルコミュニケーションにおいては、国際化学工業協会協議会 (ICCA) など国際会議での活動や、海外業界団体との交流を深めることで、国際連携を強化し、化学産業が社会課題に対するソリューションプロバイダーであることを発信してまいります。

方針③ 「操業と化学品管理の安全強化による安心の提供」

工場の安全操業、化学品管理の強化による安心の提供は、化学産業が存続するための最重要テーマで、基盤であり、前提でもあります。保安・安全の確保においては、過去の事例をもとにリスクアセスメントの強化に取り組むほか、保安事故防止ガイドラインやベストプラクティス集を展開、共有いたします。化学品管理においても、サプライチェーンと一体となった強固なリスク管理を確立し、いかなるときも安全・安心な化学製品を提供してまいります。

一方、化学産業は、設備の高経年化や少子高齢化に伴う人手不足などの課題に直面しております。安全運転を継続するため、IoTやビッグデータといった最先端のデジタル技術を駆使する体制の整備とそれを支える人材育成を支援することで、スマート保安を促進してまいります。

2050年カーボンニュートラル実現は、今までの延長線上では達成できない野心的な目標ですが、持続可能な社会に向けたあるべき姿です。そして、化学産業は様々な課題を解決することで、その実現に貢献するという非常に重要な役割を担っています。

化学産業が時代や環境の変化に対応して生み出すイノベーションやその価値を発信し、プレゼンスを向上していけるよう、会長として協会をリードしていきたいと考えております。皆様、ご支援の程お願い申し上げます。

日化協三賞 受賞各社の紹介

5月20日(金)、日化協安全表彰(安全最優秀賞・安全優秀賞・安全優秀特別賞)、日化協技術賞(総合賞・技術特別賞・環境技術賞)、日化協レスポンシブル・ケア賞(RC大賞・RC審査員特別賞・RC優秀賞)の本年度受賞者が決定しました。各賞の受賞者は、以下の通りです。

第46回 日化協安全表彰



安全最優秀賞を受賞した日本特殊コーティング(株) 筑波工場

【安全最優秀賞】

日本特殊コーティング株式会社 筑波工場

【安全優秀賞】

富士フイルム株式会社 富士宮事業場
住友ベークライト株式会社 宇都宮工場
東レ株式会社 名古屋事業場
株式会社クレハ 樹脂加工研究所

【安全優秀特別賞(研究所)】

昭和電工株式会社 融合製品開発研究所(土気)

第54回 日化協技術賞



総合賞を受賞した住友化学(株)

【総合賞】

住友化学株式会社
「低環境負荷の塩化水素酸化による塩素製造プロセスの開発と工業化」

【技術特別賞】

株式会社クラレ
「高透水性・高濁度対応膜モジュール『ピューリア®GL』の開発と工業化」

【環境技術賞】

ENEOS株式会社
「再生可能エネルギー固定化を目指した新規電解技術の開発」

第16回 日化協レスポンシブル・ケア賞



RC大賞を受賞した花王(株) SCM部門

【RC大賞】

花王株式会社 SCM部門
「先進的AI活用によるバッチプロセス異常予兆検知」

【RC審査員特別賞】

三菱ケミカル株式会社 富山事業所
「安全文化醸成のための種々取り組みと成果」

【RC優秀賞】

三井化学株式会社 岩国大竹工場製造1部環境課
「三井化学岩国大竹工場 活性汚泥安定化活動」



第16回

日化協レスポンスブル・ケア賞 受賞各社の活動概要

第16回日化協RC大賞・審査員特別賞・優秀賞を受賞された3社の活動概要を紹介します。

大賞

花王株式会社 SCM 部門

先進的AI活用によるバッチプロセス異常予兆検知

近年、製造現場では、オペレータの若年化や少人数化が進んでおり、それに伴う運転監視負荷・ストレス増大や、漏洩・品質異常等のトラブル発見遅れへの影響が懸念されている。花王和歌山工場では、多品種バッチプロセスを対象にオンライン異常予兆検知システムBiGEYESを導入し、運用を開始した。成果として、運転監視オペレータの負荷を軽減すると共に、労働安全性向上、品質安定化等を達成することができた。さらに、本システムの運用を通じた業務の見直し／標準化により、属人化を解消し、AIモデル作成を通じて、製造技術の伝承にも貢献できた。



左から 山口 浩明氏(製造統括センター長・和歌山工場長)、田村 仁氏、菅 啓太氏、松尾 信吾氏

審査員特別賞

三菱ケミカル株式会社 富山事業所

安全文化醸成のための種々取り組みと成果

三菱ケミカル富山事業所では、2016年の重篤な労災発生後に安全文化診断を受診し、その結果を受け、本体だけでなくグループ会社・協力会社を含めた事業所全員で安全の仕組み作りや意識改革、教育設備の充実等、種々施策に取り組んだ。一例として定修を分散し、年間を通して工事量を平準化することでスポットの入場を減らした他、協力会社においても労災情報の共有や本体社員と同じ安全教育を受講することで本体と同様に安全レベルの向上を図った。2020年11月30日にゼロ災1,000日を達成し、現在も継続中である。



石松 文彦氏

優秀賞

三井化学株式会社 岩国大竹工場製造1部環境課

三井化学岩国大竹工場 活性汚泥安定化活動

岩国地区のプラント排水は活性汚泥法により処理されているが、排水の汚濁負荷が高いため、海域へ放出される排水の不溶性浮遊成分濃度(SS)が協定で定められた規制値付近まで上昇し、運転対応に苦慮する場面があった。三井化学岩国大竹工場では、運転条件とSSとの相関を鋭意解析し、SS上昇の原因と影響を同定することで安定運転の条件を導き出した。結果としてSSが高い排水を海域へ放出するリスクを大幅に低減し、環境負荷の削減につなげた。過去の膨大な運転データの整理と解析には関係部署が参加し、活動を通じてオペレータの排水処理運転に対する技能・意識向上につながった。



安井 克簡氏

第46回 日化協安全表彰 受賞事業所の紹介

2022年 第46回日化協安全表彰を受賞された各事業所の概要、安全活動の特徴、今後の取り組み等を紹介します。



安全最優秀賞

日本特殊コーティング(株)筑波工場



◆事業所の概要

日本特殊コーティング(株)は、コベストロジャパン(株)の100%子会社として紫外線硬化性樹脂を事業展開していま

す。筑波工場は2001年に操業を開始して以来、紫外線硬化型の光ファイバー用コーティング材を製造し、日本市場を軸足に世界展開しています。

◆安全活動の特徴

日本特殊コーティング(株)は、長らく欧米企業と日本企業との合併企業であった歴史から、日欧の安全文化を融合・醸成させ、ボトムアップ型とトップダウン型を織り交ぜた安全活動を推進し、操業開始以来20年以上にわたる無災害を達成しています。具体的には、安全朝礼やOJT教育などの緻密で日本的な安全文化活動の土壌に、HAZOPやJSAなどの欧米で浸透しているリスクアセスメント手法や、事故やヒヤリを経験した時の心の状況を分析するSafe Start Programをローカライズし、安全活動に取り込んでいます。

◆今後の(安全活動の)取り組みや意気込みなど

日欧の安全文化を融合・醸成したメリットを最大限生かした安全管理を行い、更なる無災害継続に努力します。



安全優秀賞

富士フィルム(株)富士宮事業場



◆事業所の概要

富士フィルム(株)富士宮事業場は、世界文化遺産富士山の南西山麓に位置し、清澄な空気と豊富な湧水など豊かな自然の恩恵を受け「精密化学」とってかけがえのない環境に恵ま

れ、1963年に操業を開始しました。主に、医療用レントゲンフィルムや、タッチパネル用部材などの機能性フィルム、抗菌液の生産を行っています。

◆安全活動の特徴

富士宮事業場では、「働く人々の安全確保と健康の推進」を最重要基盤と考え、年度ごとに安全スローガンを策定し、各種安全活動を展開しています。特に昨今では、リスクを深堀し、リスクアセスメントを行う「深耕リスクアセスメント」や、リスク抽出に必要な安全感を養成する「KY感度養成教室」に注力しています。また、雇用形態が多様化する中で、新人にリスクを気付かせる「見える化」活動も積極的に推進し、全員参加で事故・労災0を目指しています。

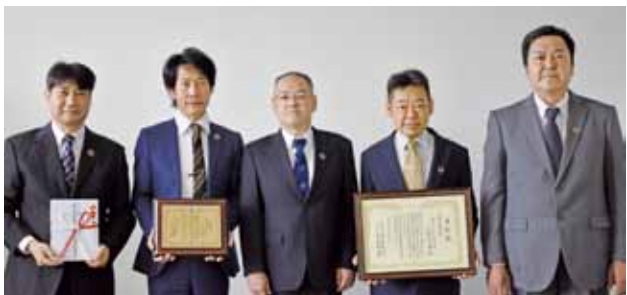
◆今後の(安全活動の)取り組みや意気込みなど

今後も引き続き、いつどんな時でも「安全を最優先する」意識を全従業員が自然に持てる企業風土を目指し、安全教育体系を更に充実させ安全意識高揚に繋がります。また、定期的に安全活動を評価し、PDCAサイクルを回しながら、従業員が安全で安心して働ける事業場を目指します。



安全優秀賞

住友ベークライト(株)宇都宮工場



◆事業所の概要

当事業所は、半導体封止材の製造工場として、1984年に

操業開始しました。現在は、電子製品に使用される素材である、半導体用ウェハーコート樹脂、ダイボンディング用ペースト、半導体用パッケージ基板材料、半導体液状封止樹脂などの生産及び研究開発を行っています。

◆安全活動の特徴

管理者が率先して安全第一の風土確立を方針とし、ハード、ソフト両輪での改善活動を推進しています。地道な継続活動とマンネリ化を防ぐ新たな活動、及び全社横展開安全指針を融合することで安全衛生活動の活性化を図っています。

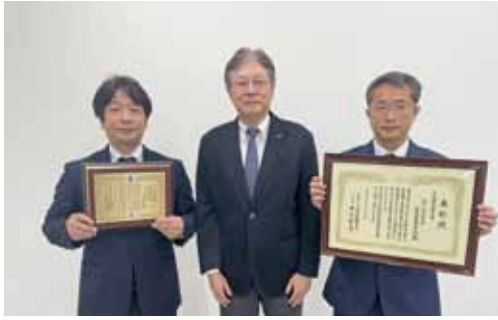
◆今後の(安全活動の)取り組みや意気込みなど

今後も当社グループ安全理念「安全をすべてに優先させる」ことをモットーに安全意識・知識を持ち、安全を考えられる人材の育成を進めていくと共に、現場リスクを削減し、環境の良い事業所へ継続改善していきます。



安全優秀賞

東レ(株)名古屋事業場



◆事業所の概要

当事業場は日本初のナイロン原料工場として、愛知県名古屋市港区大江の地に1951年に設立されてから今年で71年になります。ナイロンの原料及びナイロン繊維の製造を皮切

りに、その後は「繊維、樹脂、ケミカル」各種製品の開発・生産を通じて素材メーカーとしての基幹事業の拡大を担い、現在は、炭素繊維複合材料や高性能エンジニアリングプラスチックなどの「自動車、航空機、IT」分野向け先端材料、及びカーボンニュートラルなどのサステナブル社会実現に向けた総合開発拠点として幅広く事業展開しています。

◆安全活動の特徴

社内でも数少ない、多部門(研究、技術、生産、工務、事務)が協働する事業場であることから、全体としての統一方針を掲げつつ、各部門がそれぞれの業態に合わせた安全活動を展開しています。また、部門の垣根を超えた交差パトロールや実査・報告会を行い、互いに刺激しあうことで、活動の活性化を推進しています。

◆今後の(安全活動の)取り組みや意気込みなど

関係会社、構内協力会社を含めた事業場で働く全ての労働者の安心・安全を確保すべく、「我々の身近にはどこにでも災害の芽が潜んでいる」ことを肝に銘じ、ゼロ災害継続に邁進していきます。



安全優秀賞

(株)クレハ 樹脂加工研究所



◆事業所の概要

(株)クレハ 樹脂加工研究所は、1987年7月の設立以来、当社独自の技術で開発したポリ塩化ビニリデン(PVDC)、ポリフッ化ビニリデン(PVDF)、ポリグリコール酸(PGA)等の特長ある樹脂を市場ニーズに合った製品に仕上げるため、樹脂の改良からその樹脂に適した加工技術の開発まで、クレハグループで製造・販売する樹脂製品全般の研究開発センターとしての役割を担っています。

◆安全活動の特徴

樹脂加工研究所では、「一人ひとりが安全最優先の考えを持ち、危険予知した行動と危険な作業・設備を見逃さず、継続的に改善を進め、安心して働ける安全な職場を作る」という所長方針の下、安全活動を推進する新組織を整備する等、トップダウンによる安全活動の定着化を図ると共に、若手所員が中心となって展開している安全基本ルールの周知・徹底、KY、ヒヤリハット活動や、全所員が参加する安全パトロール等のボトムアップ活動を通し、安全文化の醸成を日々図っています。

◆今後の(安全活動の)取り組みや意気込みなど

諸先輩方より引き継いだ「無事故・無災害」を継続し、より安心・安全な職場環境を作り上げていくため、一人ひとりが安全行動を徹底し、既に定着化している安全推進活動も常に見直しながら継続し、全所員が一体となって安全活動に取り組めます。



安全優秀特別賞(研究所)

昭和電工(株)融合製品開発研究所(土気)



◆事業所の概要

融合製品開発研究所(土気)は、1994年1月に前身の研究所在現在の拠点で開所して以来、当グループの基礎研究を支

えてきました。本研究所では、お客様のニーズや当社技術群を融合した機能性材料開発、高度な分析技術を駆使した開発支援、計算科学を活用した研究課題解決、当社製品の安全性を高いレベルに保つための化学物質評価を行っています。

◆安全活動の特徴

融合製品開発研究所(土気)は、「土気地区で働く私たち全員が環境負荷低減と安全確保にコミットします」を方針のトップに掲げており、従業員一人一人が安全に業務を進めることを自分自身のこととしてとらえられるように、労働安全衛生に関する継続的な教育や危険予知活動などの取り組みを通じて、労働安全衛生に対する意識を高めています。

◆今後の(安全活動の)取り組みや意気込みなど

2022年末をもって、本研究所は当社の他ロケーションに移転しますが、表彰に恥じぬよう最後まで無災害を継続すると共に、新たな活動拠点でもこれまでの活動を継続し安全な職場環境づくりを進めていきます。

レスポンスブル・ケアニュース

No.101
SUMMER

Index

日化協 第31回定時総会	2
会長挨拶	3
日化協三賞 受賞各社の紹介	4
第16回 日化協レスポンスブル・ケア賞 受賞各社の活動概要	5
第46回 日化協安全表彰 受賞事業所の紹介	6
RC委員会だより	8

RC委員会だより

☆会員動向 (会員数：122社 2022年7月末現在)

☆行事予定

10月12日 安全シンポジウム
12月1日、2日 第17回 アジアパシフィック レスポンスブル・ケア会議 (APRCC)

表紙写真の説明

事業場から望む富士山

富士フィルムの主要製造拠点の一つである富士宮事業場は、世界文化遺産富士山の南西山麓に位置しています。豊富な湧き水や清涼な空気の影響を受け、「精密化学」にとってかけがえのない環境に恵まれています。富士宮事業場は「環境保全」と「地域共生」に充分に配慮した事業活動を進めています。

富士フィルム株式会社提供

編集後記

● 欧米各国はコロナ前の生活を取り戻しつつありますが、日本はいまだに感染者数が過去最高を更新し続けており、まだしばらく我慢が続くそうです。そのような中で、行事予定にありますように、昨年来延期されておりましたAPRCCが、台湾をホスト国としてオンライン形式で開催されます。詳細は随時日化協のHPにて案内していきますので、是非御参加ください。

RC NEWSのバックナンバーは、以下のアドレスにてご覧いただけます。

▶ <https://www.nikkakyo.org/organizations/jrcc/rc-news-page>

